

「教える・学ぶ」 「治す・治る」 —教育と医療のあり方—



岡崎市教育委員会

委員長 杉浦 壽康 氏

教育委員として教育に関わり、小児科医として保健医療に携わっていること、教育と医療が非常に似ていることに気が付く。子供の生育歴や現在の生活環境を充分に知っていることは、医療を行う上でも、教育の現場でも大切であり必要なことであると思う。例えば、アトピー性皮膚炎や喘息などアレルギー性疾患は遺伝(DNA)が関与しているが、発病は生活環境や習慣が強く影響する。したがって生活環境を整え(改善し)習慣を変えることによりアレルギー性の病気は治り、発病を予防でき、不必要な薬の使用を避けられる。初期の軽いうちならば薬を使用しなくても治るものである。病気は(医師が)薬で治すのでなく、医師の助言により患者さんの持つ自然治癒力で

教育随想



平成14年8月1日

8月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
岡崎市教育委員会 委員長 杉浦 壽康氏	
この人に聞く	2
岡崎医療刑務所篤志面接委員 陶芸家 杉浦 豊楽氏	
羅針盤	2
六ッ美中部小学校長 鶴田紀美子	
ふれあい	3
常磐東小 六ッ美中	
後藤 智子 太田 勲	
特集	4
浄瑠璃のルーツ ～浄瑠璃姫伝説～	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
二部合唱の校歌(昭和61年)	
この本を	8

治るものである。

教育の現場でも子供と関わる時、子供が育った家庭環境を知ることにより、子供の性格を理解できるであろう。殊に保護者(親)の子育てに対する考えや態度を知ることには一人一人の児童・生徒への関わりに大いに役立つはずである。算数(数学)が好きな子嫌いな子、国語が得意な子不得手な子いろいろある。嫌いな子、不得手な子に教えることは大変である。いかにしたら好きになり学ぶ意欲が湧くかを考えるべきではな

いだろうか。教え込む(治療する)のでなく、自ら学ぶ(治る)ための支援(助言)をすることが必要ではないだろうか。

最近、ほとんどの学校が「自ら学ぶ意欲」を目指して実践しておられるようである。「治す」か「治る」か「教える」か「学ぶ」か、「育てる」か「育つ」か、医療も教育もよく考える必要があると思う。(すぎうら としやす・小児科医)





心を癒す陶芸の日々

岡崎医療刑務所篤志面接委員

陶芸家

杉浦 豊楽 氏

「実は趣味で陶芸を始めたのではないのです。当時小学生の次男を交通事故で亡くし、悲しみにくれていました。気分を紛らわせるため、焼き物を始めたのです。その後、家内とともに瀬戸の澤田真斉氏に、毎日楽焼の指導をしていただきました。そのときに『豊楽』という雅号をいただきました。」

静かな仕事場に宮大工六代目の杉浦さんの声が響く。陶芸との出会いをしつかりとした語調で語ってください。

さった。御年八十歳とは思えない。

その後、岡崎医療刑務所から篤志面接委員として受刑者の精神安定のために焼き物を指導してほしいと依頼を受け、昭和五十一年から現在に至る。

「所内では週一日、焼き物の指導をしています。焼き物の話以外一切許されません。」

殺人や放火などの罪を犯した精神障害のある受刑者の指導は緊張や苦勞も多いものと思われる。しかし、この仕事に二十七年間携われ、三年前には藍綬褒章を受章された。

「所内では、二十歳代から七十歳くらいまでの受刑者が熱心に私の話に耳を傾け、ろくろを回してくれます。どんどん上達していくのを見るのが何より嬉しいですね。」

現在、十名を指導されている。所内にある電気窯で、信楽焼に似た素朴な「土地焼」を作り出した。作品は花器や鉢、皿など、一週間に四百個ほどを制作している。すべて完売状態と聞く。

「褒めることを大切にしています。褒めると顔つきがよくなります。その後、こうするとよいとアドバイスをしています。」

と、教師である私たちにも通じるお

話をたくさんしていただいた。

「二十七年間、休んだのは五回だけ。健康で続けることができ、自分でも驚いています。苦勞はありません。楽しいことをしているのですから。人間は、自分に自信を持つことが大切で、やれるんだという自信が前向きな生き方につながります。」と語られた。

その目は、子を亡くされた自分の悲しみが陶芸によって癒されたように、罪を犯した人の心を癒したいという優しさにあふれていた。

氏名 すぎうら ほうらく
 (豊ゆたか)
 生年月日 大正十一年一月二日
 住所 大西一七七八



一輪の朝顔

六ッ美中部小学校長

鶴田 紀美子

夏真つ盛り、春に一年生のまいた朝顔が次々と花を咲かせている。

茶人千利休は、路地に咲いた朝顔の花を一つ残らず摘み取って、秀吉をお茶に招いた。秀吉は、葉ばかりの朝顔に不審を抱きながら、躪り口をくぐってあ然とした。花入れには、瑞々しい鮮やかな朝顔が一輪活けられていた。戦場に向かう者にとって、今日の出会いこそが今生の別れとなるのかもしれないという「一期一会」のおもてなしであったのだ。この心を千利休は、禪の精神を取り入れ、「茶の湯」として確立したのである。

長い教員生活で私は、この心意気の先生方に出会うことができた。

A先生の四月。学級開きは、感動ものであった。黒板いっぱい学級の子一人一人にメッセージを書き、

生命の不思議に触れて

常磐東小 後藤 智子

一年生が学級園に芋のつる挿しをしたときのことである。

「あれ、白いものがいっぱい出てくるよ。」

つるを手にしたA男が大きな声をあげた。みんな、三日前に見たときは、ただの葉っぱだったのに、茎のところからたくさん根が出てくる。天候などの都合でなかなかつる挿しができず、水につけておいたところ、根を伸ばしていたのだ。変化を不思議がっている子供たちに、「こうやって根っこがのびて、どんどん栄養を吸い込んで、お芋は大きく育っていくんだね。」と語りかけると、子供たちは驚きながらも、一本一本大切に植えていった。

六月。全校で挿し木を行った。

一年生の子供たちも、手に手にはさみを持って集まった。緑化委員の子たちから葉や枝の切り方などを教えてもらい、いよいよ本番である。なかでもA男は早く枝を切りたくてわくわくしている様子だった。

「この前の、お芋のときみたいに、根っこが出てくるんだね。すごいね。小さいけど元気なんだね。」



一生懸命はさみを使うA男の様子が、ほほえましく感じられた。



後輩につながるもの

六ツ美中 太田 勲

昨年、男子バレー部にA男というエースアタッカーがいた。中学校からバレーを始めた生徒である。

新チームがスタートした頃、どのチームと試合をやっても勝てなかった。試合中、A男は自分がミスをするを床をたたいて悔しがった。中心選手であったため、注意を受ける回数が多かった。つらくて涙を浮かべ

ながらプレーすることもあったが、めげることなく全力でスパイクを打ち続けた。

夏の大会がきた。予選リーグは一位で勝ち抜けたものの、西三大会へは進めなかった。最後の試合が終わった後、どの子の目にも涙が光っていた。私はA男の前に行き、「つらかったと思うが、よく頑張ったな」と言いつて握手をした。すると、A男は、ぐっと手を握り返した。泣きながらうなずくのがやっとであった。

十月のある日、廊下でA男に会った。A男は「僕みたいに、気合の入った後輩はいますか」と聞いてきた。私は、「君ほどの子はいないけれど、君を見習って頑張ってるよ」と答えた。A男はうれしそうな笑顔を残し、胸を張って去っていった。



子供たちを迎えた。始め半分、今日の一步は、一八二歩に値するのだ。それから毎朝、黒板日記が子供たちを迎えた。今日の先生のことばは何だろうかと弾んだ心で学校に来た。

B先生は、毎朝の子供たちへのスピーチを三分と決め、一〇〇〇字の原稿を必ず書いてから話した。一〇〇〇字を過不足なく毎日まとめることは、困難であり、文章修行でもあった。だが、子供たちへの思いが、簡にして要を得たスピーチとなり、その先生の力量向上は言うまでもないが、子供たちも知らず知らずに文章をまとめる力がついたのだ。

C先生は、授業で単元の出会い、一時間の始めの出会いに工夫があった。「奥の細道」の終着地大垣市や、「石狩峠」の北海道まで取材に行った。子供たちを喜ばせるというだけでなく、何を伝えたいかどんなクラスにしたいのかという先生の思いや夢が、この出合いを演出させたのだ。詩人、須永博士さんは語る。

「教育とは

人間と人間の出逢い^あです

優しさと優しさの出逢い^あです

情熱と情熱の出逢い^あです

教育とは

心と心との出逢い^あです」

浄瑠璃のルーツ

～浄瑠璃姫伝説～



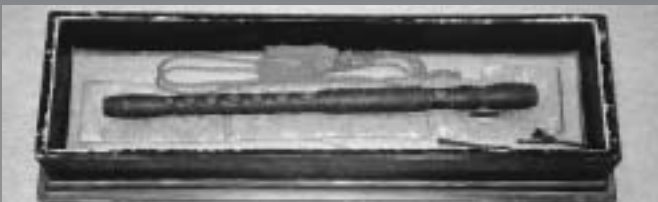
▲ 浄瑠璃姫の墓（誓願寺）

《浄瑠璃姫伝説》
 矢作宿の主、兼高長者のもとに、奥州藤原氏を訪ねる途中の源義経が立ち寄った。浄瑠璃姫の琴の音に惹かれ、名笛「薄墨」で合わせたのがきっかけで愛が芽生える。しかし、義経が旅立って後、義経を思い、行く末を嘆き悲しんだ姫は、菅生川に身を投げた。

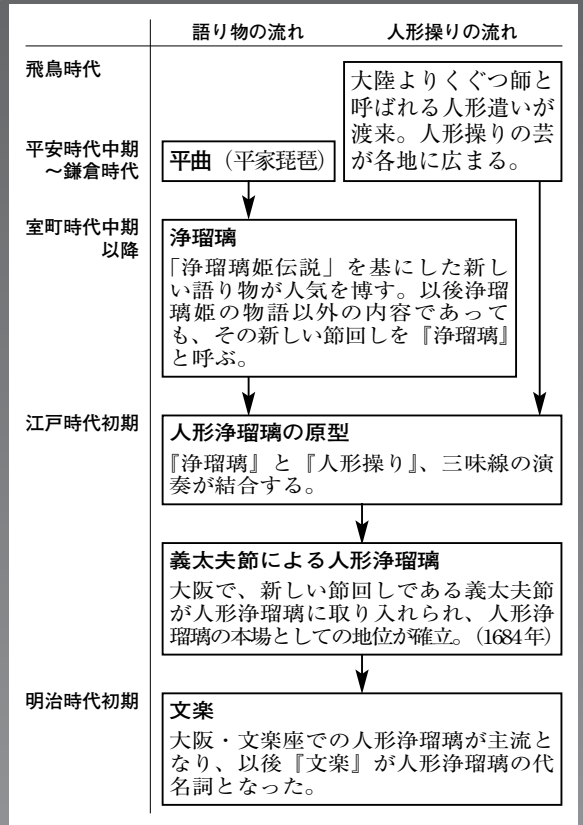
浄瑠璃の名の起こりは、この岡崎にあることをご存知だろうか。
 浄瑠璃とは、室町時代に興り江戸時代に完成した三味線に合わせて語る語り物の総称である。今では、竹本義太夫が始めた「義太夫節」や文楽座で始まった人形浄瑠璃「文楽」とほぼ同義として用いられている伝統芸能の一つである。
 矢作橋西、旧国道沿いにある誓願寺。この境内に今もひっそりと眠る浄瑠璃姫。誓願寺には浄瑠璃姫の悲しい伝説が残っている。



▲ 義経・浄瑠璃姫木像（誓願寺）



▲ 薄墨の笛（誓願寺）



▲ 浄瑠璃の流れ



▲ 十王堂で総合的な学習の時間に活動する児童



▲ 伝説を語る誓願寺の住職さん



▲ 浄瑠璃姫伝説の学習発表

この伝説は「浄瑠璃十二段草子」として書かれ、語り物として人気を博した。この節回しがほかの物語にも用いられるようになり、この種の語り物を以後「浄瑠璃」と呼ぶようになったのである。

誓願寺には、名笛「薄墨」や浄瑠璃姫の墓、姫の供養のために建てられたと言われる十王堂などが現存し、近隣の小学生にとつて、総合的な学習の時間や社会科の生きた教材となっている。

近く、浄瑠璃姫を題材にした創作劇を学芸会で上演する学校もあるという。日本の伝統芸能「浄瑠璃」のルーツが岡崎にあったことを知り、改めて岡崎の歴史の深さを誇りに思う。



▲ 花の撓たう（浄瑠璃姫供養の意味ももつ地域の祭り）に参加し祭りを盛り上げる小・中・高校生（5月8日ごろ）



▲ 誓願寺に代々伝わる浄瑠璃姫の木版画

お知らせ

● 教育最新情報

○ 幼・保・小連携教育

平成十三年度より、幼稚園・保育園と小学校との連携の試みが始まった。

今までも、就学時における連絡会は実施されていて、情報交換の機会があった。また、小学校での授業参観を企画していた学校もあった。しかし、お互いの教育方針や、教育課程に踏み込んで、話し合う時間を多く設定してはいなかった。今、子供の成長を見つめたとき、幼児教育と学校教育が、確かな計画を持って進むことの重要性が求められている。昨年度の成果と本年度前進するための課題を整理する。

授業参観

道徳・生活科を中心に実施した学校が多かった。初めて学校の授業を見る方もいて、



子供の成長や授業中の教師の手立ての見事さに感心された感想が寄せられていた。

- ・指導要領の内容を熟知する必要がある。
- ・しつけ面では、要望を出し合い計画的に進めたい。
- ・子供同士が交流する機会を考えたい。
- ・授業参観が保育時間と重なるので、日程調整の工夫がいる。

懇談会

参観後、和やかな雰囲気です、話し合いが進んだ。学校の教育方針・担任から子供の状況説明が、園の方針や日常の保育を振り返るきっかけとなったことや、参観授業の感想から小学校の授業を反省することにつながったのは、成果であった。

- ・園側の質問に学校が答えるという関係から、意見交換という場を高めたい。
- ・保育参観後の懇談会も計画したい。

情報発信

礼状も兼ねて、すべての関係園に授業参観や懇談会の記録を送付した。

また、懇談会で十分に話せなかつた点についてアンケートに答えていただき、まとめた学校もあり、初めての試みを有意義に受け止めた報告を受けている。

- ・通信など、普段の状況の記録も交換する工夫をしたい。

各学校の特色を生かし、さらに連携が深まるよう期待する。



▲ 幼・保・小懇談会 (H13 藤川小)

● 少年自然の家だより

○ 三校合同の「山の学習」

二年後には同じ中学校に通うのだから、小学校のうちから少しでも交流をし、共通の思い出を胸に中学校生活のスタートを円滑に進めさせたい。常磐南小・常磐東小・常磐小の校長先生方の意向を受けて昨年度から、三校合同「山の学習」が行われている。昨年は、オリエンテーリングやキャンプファイヤーなど一部の活動を共にしただけだった。しかし、六月二十四日から二泊三日で実施された今年度は、三校の五年生五十八名が学校の枠を越えた班編成をし、全て合同で取り組んだ。寝食を共にし、いろいろな体験活動を通して、すっかり打ち解け合った子供たちは、終始和やかな雰囲気の中で過ごしていた。

○ ホタルに親しむ会

六月八日(土)に、「第一回ホタルに親しむ会」を開催した。会には募集人員をはるかに上回る、五十家族百七十



▲ 熱心にホタルの話聞く参加者たち

名の参加者が集まった。午後一時に自然の家に集合した参加者たちは、落ち葉スキーやアスレチックなどの野外活動をしたり、野外炊飯をしたりして、初夏のひとときを親子で満喫した。

日も暮れかけた午後七時、参加者は研修室でスライドを見ながら、講師の古田先生からホタルの話聞き、その後実際に所内でゲンジボタルを観察した。

数十匹のゲンジボタルが幻想的な光を放ちながら、優雅に飛び交う姿を目の当たりにした参加者たちからは、感嘆の声がもれていた。

● 親善訪問使節団派遣

岡崎市中学生（姉妹都市・友好都市・生徒国際）交流事業として、本年度は、ニューポートビーチ市、呼と浩特市に加えて、タウランガ市への親善訪問を予定している。

・ ニューポートビーチ市

受入れ 7/6(土)～7/15(月)

訪問 9/30(月)～10/9(水)

・ 呼と浩特市

受入れ 8/1(木)～8/7(水)

訪問 9/23(月)～10/1(火)

・ タウランガ市

訪問 10/7(月)～10/17(木)

● 表彰

◆ 平成十四年FBC春花壇

学校花壇設計図

知事賞 六ッ美中部小学校

◆ 第二十四回中学生相撲大会

・ 団体戦

優勝 美川中学校

・ 個人戦

優勝 美川中 青山 智昭

三位 南中 平田 怜

◆ ペシカップ第二十二回全日本

レーボール小学生大会愛知県大会

男子優勝 竜美丘小学校

二位 上地小学校

女子二位 上地小学校

◆ 第46回岡崎市中学校総合体育大会の記録

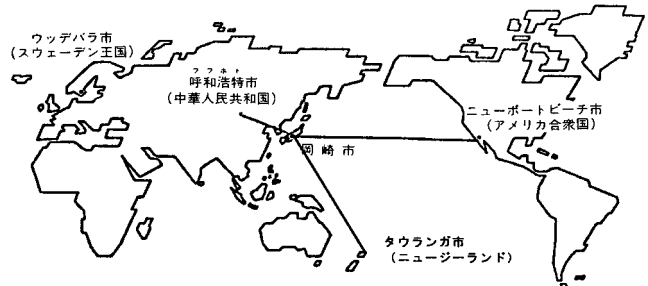
● 水泳競技の記録

☆新記録

性	種目	氏名	校名	記録	
男	100m自由形	川口 泰宏	岩津	1'00"9	
	100m背泳ぎ	西尾 太郎	城北	1'04"0	
	100mバタフライ	慶田本 善文	甲山	☆1'02"7	
	100m平泳ぎ	澤田 将宏	矢作	1'12"4	
	200m自由形	井土 清貴	附属	2'09"5	
	200m個人メドレー	筒井 和也	岩津	2'25"6	
	50m自由形	伊藤 滋伸	竜海	27"7	
	400mメドレーリレー	天野・榑木・坂野・柳	竜海	4'32"6	
子	400mリレー	坂野・天野・伊藤・荒井	竜海	4'04"2	
	男子総合	1 竜海 2 城北 3 岩津			
	女	100m自由形	中村 綾	矢作北	1'03"6
		100m背泳ぎ	近藤 理紗	甲山	1'14"0
		100mバタフライ	岩下 なつみ	城北	☆1'06"5
		100m平泳ぎ	林 このみ	北	1'20"3
		200m自由形	藤墳 莉奈	竜海	2'28"0
		200m個人メドレー	近藤 美咲	甲山	2'36"6
50m自由形		水上 さと子	附属	☆ 29"0	
400mメドレーリレー		鶴田・高田・上松・藤墳	竜海	5'03"9	
子	400mリレー	澤本・加藤・岡田・河津	南	☆4'21"7	
	女子総合	1 竜海 2 城北 3 南			



▲ 来岡したニューポートビーチ市訪問団 市長表敬訪問



▲ 本年度親善訪問する都市

平成14年度教科・領域基礎研修会一覧

教科・領域	期日	会場	人数
国語(書写)	8.1	井田学区市民ホーム	50
社会	8.2	南部市民センター・ユースストア	40
算数・数学	8.6	矢作東小学校	40
理科	8.1	六名小学校	50
生活	8.1	南部市民センター分館	50
音楽	8.2	教育研究所大会議室	40
図工・美術	8.1	おかざき世界子ども美術博物館	30
家庭科(小学校)	8.2	六ッ美市民センター	20
技術・家庭科(中学校)	8.1	六ッ美市民センター	20
英語	8.1	勤労文化センター	60
特殊教育	8.1	六ッ美西部小学校	45
特別活動(野外活動)	7.24～26	岡崎市少年自然の家	40
学習情報(ビデオ)	8.1	福祉会館6階	20
学習情報(パソコン)	8.1	竜美丘小学校	40
学校図書館	8.1	教育研究所	50
学校保健	8.2	中央総合公園第1会議室	50
総合的な学習	8.2	広幡学区市民ホーム	50



▲ H13 理科夏期実験実技講習会

・カ
ツ
ト

六ッ美北中 早川周宏



二部合唱の校歌

(昭和61年)

北野小学校が開校したのは昭和六十年である。矢作北学区の人口増が著しく、校舎が急ピッチで新設された。一年後の学年末、工事の終わったばかりの体育館で、校歌の作詞者や作曲者を招いて、校章・校歌・校旗の発表会を行った。

北野小学校の校歌は二部合唱で歌われている。古くからある学校の校歌は斉唱で歌われることが多いが、最近開校された学校の校歌は二部合唱で歌われるところが多く、この点でも新しさを感じられる。



写真提供 北野小学校



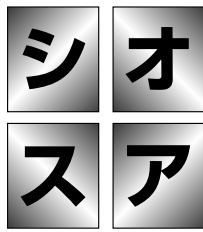
- *徳と正義 中坊公平、稲盛和夫
PHP出版 ￥1300
- *梅原猛の授業 仏教 梅原 猛
朝日新聞社 ￥1300
- *精霊流し さだまさし
幻冬舎 ￥1429
- *いのちの太鼓 村上 功
学陽書房 ￥1500

*ひとが否定されないルール
一妹ソマにのこしたい世界

日木 流奈 講談社 ￥1500
 極小未熟児として生まれ、先天性腹壁破裂のため三度の手術を受ける。それが原因で歩くことも話すこともできない脳障害となった著者が、両親の深い愛情に支えられ独特の教育プログラムにより、文字盤を使って表現した12才のメッセージである。
 本書で著者は、家族や障害について等、多岐にわたって語っているが、いずれも人間への観察眼の鋭さと愛情、生きることへの真摯な姿勢が、読む者の胸を強く打つ。

大阪、池田小の悲惨な事件から一年以上経つ。我が子を学校で失った遺族の悲しみが癒えるのはいつのことだろう。
 「開かれた学校」が叫ばれ、長時間長期間の学校参観が各学校で行われている。
 このような時代だからこそ常に危機管理意識を持ちたい。

新チームが発足し、蒸し暑い体育館での練習が始まった。先輩と違いボールをうまく操ることはできないが、フレッシュな顔には、玉のように吹き出た汗とやる気が満ち溢れている。夏の暑さと部員の熱意。雪辱に燃える指導者の熱も加わり、今年の夏も暑い。



アペリアの白い花が咲きほころぶ横で、子供たちが遊び学んでいる。アジサイの観察、アサガオの栽培、季節と共に自然が変わり、季節と共に学ぶ対象が変わる。季節を感じ、共に生きていることを実感してほしい。

菅生川岸辺、浄瑠璃ヶ淵(明大寺町)に句碑がある。
 「散る花も 流れによとむ 姫が淵」
 今秋家康館で浄瑠璃姫にまつわる品の展示会が開かれる。市民劇「異聞、十二段草子」も来春公演予定だ。浄瑠璃旋風が起ころそろう予感。古のロマンに浸ってみよう。